

折々の記No135：パブリックコメント！

(H21/1/5 記)

平穏な新年を迎えることが出来た。5日出社し、何時もの通りに昼休みに銀ブラ、そして日比谷公園へと足を伸ばした。年末の大きな話題となった「年越し派遣村」の撤収が最終段階に差し掛かっていた。



さて、年末の25日教科用図書検定調査審議会が文科大臣へ「教科書検定基準（案）」を提出し、パブリックコメントを公募する旨が発表された。以上の情報を同期生から受けたので、早速にアクセスして、小生の想いの丈を3つに分けて発信した次第である。以下にその内容を記し、諸兄の厳しいご指導・ご批判を願うものである。

①主題「検定基準について(全般)」

「教育基本法や学習指導要領に合致しているかどうかを検するのが検定基準であると認識しているが、本来目的や目標と離れた記述や議論が間々見られるのは甚だ残念である。

愛国心や公共の精神等を涵養するという基本精神に鑑みて検定されるべきであるにも関わらず、それから逸脱した内容が散見される。国内外の圧力に屈することなく。原理原則を堅持して検定して貰いたい。

教育は国家としての最も重要な責務であり、我が国の独自の立場から推進されるべきものである。国家としての基本的ポリシーの下、客観性、公平性を期すべきである。

また日本の伝統的な良さや誇り等を助長する方向で検定を行う必要がある。神話についても、順当に評価して頂きたい。荒唐無稽と断ずるのではなく、その底流にある日本精神を理解させることが必要であろう。

また、近年家族や地域が崩壊しつつある現状に鑑み、それらにも踏み込んで検定をして頂きたいものである。家族や地域の絆の復活こそ日本再生の鍵であると思料する。

また、憲法が不磨の大典の如くに扱われているが如何なるものであろうか。憲法の本来の位置付けや意義を明確にすることが肝要である。

また、主権国家とは何か、国民とは如何なるものか等についても冷厳なる原理原則を明示する必要がある。お助けクラブではないのである。四面環海の我が国にはどうしても国

家間が希薄なような気がする。そこまで踏み込んで頂ければ望外の喜びである。

②主題

「我が国に対して誇りの持てるような教科書たるべく近現代史にかかる検定基準の改正」
『教育基本法第2条5項にもある通り、教育目標の一つとして自国に対する愛国心を涵養することは重要であると思料します。然しながら、現行教科書の近現代史に関する記述は徒に我が国を貶め、我が国に対する誇りなど持ち得ないようになっているとしか思えない状況であり、甚だ遺憾であるといわざるを得ない。

この遠因は、検定基準第3章社会科(地図を除く)1(3)項「近隣のアジア諸国との…」の所謂近隣諸国条項にあると断ぜざるを得ない。一定の配慮をする必要はあるものの、現状は彼の国に阿ねているとしか思えない。外国の主張を無批判に記述するなど本末転倒である。我が国の立場や歴史的背景を踏まえて、次代を担う子供達が我が国に対して誇りと自信を持つように教導すべきであると信じます。

東京裁判にしても、勝者による敗者に対する不遡及の原則に違反した国際法違反の裁判であるにも関わらず、その様な視点からの記述は一顧だにされていない。確かに我が国の行為には非難されるべき面を多々あったのは否めない事実であろう。だとしても、我が国の歴史教育は我が国が全て悪であるという前提に立っているとしか思えない。

歴史的な評価が定まっていない事件等に関し、特定の学説や評論家の一面的見解を教科書に掲載すべきではない。最小限、物事の判断が出来る年齢になった場合には、異なる見解があることを十分に理解させて公平性を期すべきである。

歴史家でもない小生が、言うべき事ではないかも知れませんが、歴史には表もあれば裏もあり、現代から見れば悪であっても当時においてはそれほど非難されるべき事項ではなかったということもあります。その様な歴史の現実を無視して一方的に断罪することは果たして如何なものでしょうか。公平性と客観性を如何にして担保するかを基本的指針として近現代史に関する基準及び教科書記載内容を見直して頂きたい。

また、本基準見直しに関し、他国が内政干渉がましい言動を為す例が多々ありますが、断固として主張すべきは主張すべきでしょう。

③ 主題：客観的な史料に基づく検定の実施

「南京大虐殺の死者数が30万人などと白髪三千丈式の誇大的な数字がいつの間にか歴史的事実として定着しつつあり、極めて遺憾に思います。歴史学者ではないので、南京城において日本軍が所謂虐殺した数を幾らと例証は出来ないけれども、中京(国)の宣伝文句を客観的事実として記載することは問題が多い。関連写真等もその客観性に疑問が表されており、事実を記すべき歴史としては余りにも杜撰であるというべきである。

歴史的事実として歴史学会或いは日中共同研究において定まったのであればまだしも、宣伝臭の強い数字や捏造された写真等、若しくは悪意に満ちた風刺画等を安易に使用すべきではない。そういう意味において、客観的な史料に基づく検定をして頂きたい。歴史的な評価が定まるには相当な時月を要するものと思われる。

公平性をと言うのであれば、日本軍の虐殺のみを取り上げるのではなく、通州事件などをも取り上げて当時の時代背景を公平に理解させる必要がある。通州事件でもって免責にしようなどと言う気は毛頭ないが、余りにも一方的・一面的な採り上げには疑問がある。

陰謀史観に与する訳ではないが、或いは事実かもしれないというのであれば、それらをも記載すべきであろうが、何れにしても、歴史を教えるに際しては、多面的・多元的な視点を堅持すべきであると考え。百人斬り競争や沖縄における軍命令による集団自決などについても著しく公平性を欠いており、一方的且つ断罪的な記載は罪悪ですらある。

また、時に極めて露悪的な写真等を掲載しているものもあるが、子供達の成長段階に従って節度ある掲載に努めるべきであろう。情緒障害や人間不信を起こしかねない